第322号（平成22年８月号）

国リハニュース

国立障害者リハビリテーションセンター広報誌

「平成22年度第１回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会」（センター学院大研修室）

目　次

〔巻頭言〕
理療教育・就労支援部長「ランニング ライフ」…… 2

〔国際協力情報〕
タイ国研修員の研修報告…… 3

〔自立支援局情報〕
世界ゴールボール選手権大会
ーシェフィールド2010参加報告 …… 4

〔病院情報〕
病院紹介シリーズ㉕「病院外来」…… 6

高次脳機能障害支援普及事業「平成22年度第１回
支援コーディネータ全国会議」等の開催について…… 7

〔研究所情報〕
第37回国際福祉機器展H.C.R2010における
研究所の展示について…… 9

〔学院情報〕
平成23年度学院入学試験日程等について …… 10

〔魚拓シリーズ31〕
ハタタテダイ…… 13

〔統計数値〕
平成22年度リハビリテーション
実施状況（７月報告）…… 14

〔巻頭言〕

ランニング ライフ

理療教育・就労支援部長　飯塚　敏幸

以前、エイジレス・ライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由で生き生きとした生活を送る）を実践している高齢者や、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループを紹介する仕事に携わったことがあります。若い頃から培った知識や経験を高齢期の生活で社会に還元して活躍されている方、中高年から一念発起して物事を成し遂げた方、グループ活動を通して社会とのかかわりを持ち、生き生きと充実した生活を送っている高齢者中心のグループなどを目の当たりにして、現役のうちに老後の過ごし方を考えておく必要性を痛感しました。

その後、仕事に追われる日々が続きましたが、時間を見つけては、体力づくりとして気功やテニス、潤いのある生活づくりにとピアノや尺八の演奏、趣味と実益を兼ねてそば打ちや野菜作りなど、いろいろなことを試みてきました。どれも中途半端で今は一時停止状態ですが、エイジレス・ライフの下準備として、将来に生かして行きたいと思っています。

そんな私ですが、今から３年半ほど前、塩原視力障害センターへ単身赴任した時のことです。赴任早々の４月、昭和の日に、地元塩原温泉街で開催される「塩原温泉湯けむりマラソン全国大会」に主催者側関係者として出席する機会がありました。本マラソン大会では、塩原視力障害センターの利用者と教官が、レースを終えたランナーに対して無料でマッサージを施すことが伝統的に行われており、大会の目玉ともなっています。ランナーに喜んで頂いていることは勿論ですが、利用者にとっても多くの人にマッサージを行うことによって実技の技能向上に大いに役立つとともに、人から感謝される喜びを実感できる大変貴重な機会となっています。私自身もこのマラソン大会を通して初めて知ることも多く、マラソンに対するイメージも変わりました。この時の大会での最高齢参加者は93歳で、５kmを元気に完走されました。マラソンがこんなに高齢になっても楽しめるスポーツであることを知り、また、ゴール前までは苦しそうに走っていたランナーも、ゴール後はみんな満足気で爽やかな笑顔でいることに接し、いつかは自分もランナーとして参加してみたいという衝動に駆られました。その後、健康不良もあり、塩原センター周辺を走り始め、翌年の大会にはランナーとして参加し、走ることの幸せや喜びを実感することが出来ました。

爾来、ランニングは私の生活の一部となり、今でも休日は家の近くを走ったり、地元で開催される大会に参加しています。ランニング中は日常のストレスから開放され、走り終えた後の爽快感は何物にも代え難いものがあります。

季節はスポーツに最適な秋に向かっています。10月の流山ロードレース、11月の四街道ガス灯ロードレース及び12月のいすみ健康マラソンは既にエントリー済みで、その後も毎月１回どこかの大会に参加する予定です。そして、来年４月には三度目の塩原温泉湯けむりマラソン全国大会に参加し、完走後にセンターの利用者からマッサージを受けることを今から楽しみにしています。

人生80年時代、これからも爽快さを求めて走り続け、東京マラソン完走を中期目標とし、行く行くは視覚障害者の伴走者としてお役に立てるようになりたいと思っている今日この頃です。

タイ国研修員の研修報告

６月から７月の間の６日間、日本医科大学の依頼によりタイ国チェンマイ大学付属病院の看護師長が当センターでリハビリテーション看護に関する研修を受けました。特に脊髄損傷の患者さんへの看護が研修のテーマでした。

研修の報告と研修員が勤務する病院についてご紹介します。

私の名前はニパ・ワチララットです。タイ北部のチェンマイにある、チェンマイ大学医学部付属病院のリハビリテーション病棟で看護師長として勤務しています。リハビリテーション分野の看護師として23年間の経験があります。

はじめに、勤務する病院を簡単にご紹介します。正式名はチェンマイ大学医学部付属マハラヤ・ナコーン・チェンマイ病院といいます。

ベット数は1,500床で、１日あたりの入院者数は1,200人から1,350人、外来患者数は3,000人から3,500人です。看護部門で働いているのは全部で2,400人ほどです（そのうち正看護師は1,356人、准看護師は620人、看護補助者は242人、クラークが13人です）。

リハビリテーション病棟はベット数が25床で、一番多いのは脊髄の障害の患者さんで次が脳血管の障害の患者さんです。この病棟で私は、看護のマネージメント、指導・教育、カウンセリング、研究等の様々な活動を行っています。これまでにオーストラリア、スイス、フランスのリハビリテーション病院・施設で短期の研修を受け、各国のリハビリテーションを見てきました。また、教育活動として脊髄損傷の患者さんに対するリハビリテーション看護や神経因性膀胱に対する看護ケア等について講師を務めてきました。

障害がある人にとって、地域におけるリハビリテーションは生活の質の向上と勇気づけのために重要な活動であり、チェンマイ大学付属病院が目指しているものでもあります。

さて、今回は日本医科大学の招聘により、次の病院で研修を行うことができました。日本医科大学千駄木病院、同大学千葉北総病院、日産厚生会玉川病院、桜新町リハビリテーションクリニック、三軒茶屋クリニック、梅が丘総合福祉センター、そして国立障害者リハビリテーションセンターです。

毎週金曜日の計６日間の研修でしたが、国立リハビリテーションセンターでの研修についてまとめました。病院２階病棟を中心に研修を行いました。

■研修した内容

①障害がある人々に対する総合的リハビリテーションサービス

②脊髄障害の患者さんの集中リハビリテーションとリハビリテーション看護（脊髄障害女性の妊娠・出産に関する相談を含む）

③自立支援局における看護業務

④リハビリテーション専門職の養成

⑤職業リハビリテーションの役割

⑥リハビリテーションにおける研究開発

■今後の活動計画

①チェンマイ大学付属病院のリハビリテーション病棟における人事管理と患者さんのリハビリテーションに関わる調整に日本で学んだことを活かす。

②リハビリテーションのマネージメントに従事する職員の能力開発を行う。

③タイ北部地域を対象にしたリハビリテーション看護の短期研修を計画する。

④タイ国のリハビリテーション看護従事者に脳血管障害と脊

髄障害のリハビリテーション技術と知識を伝達する。

日本での研修は最新の医学的ケアの知識を得る機会です。大事なのは、日本で学んだ知識と技術を研修員が自国の状況に合わせて応用することです。

日本の保健システムのみならず生活や文化を知ることができたことも大きな成果です。今回の研修でお世話になった皆さんにお礼を申し上げます。

２階病棟　安濟ノブ看護師長（右）と

チェンマイ大学医学部付属
マハラヤ・ナコーン・チェンマイ病院

〔自立支援局情報〕

世界ゴールボール選手権大会
―シェフィールド2010　参加報告

理療教育・就労支援部　理療教育課　江黒　直樹
（ゴールボール日本女子チームヘッドコーチ）

世界ゴールボール選手権大会が2010年６月17日（木）から27日（日）まで、イギリスのシェフィールドにて、男子16カ国、女子12カ国が出場して行われた。参加資格は北京パラリンピック成績上位３カ国とアジア・ヨーロッパなどの各地区の予選会を優勝もしくは成績上位の国のみが出場することができ、成績上位３カ国には2012年ロンドンパラリンピックの出場権が与えられる大会である。日本女子チームは今年３月マレーシアで行われたアジア大会で優勝して出場権を獲得した。体格では出場12カ国中、１番小柄でスリムで、世界の強豪に対抗するために、「失点しない」を目標に、国内ではゴールボール競技人口が少ない中、選手を月に１度招集し強化合宿を行った。ディフェンス力（守備力）の強化を図り、「世界一」美しい、強いディフェンスを作り上げ、大会に臨んだ。

「いざ！出陣！」、日本を17日10時過ぎに立ち、ロンドン経由でマンチェスターへ。さらに車で約１時間半のシェフィールドという町に到着したのが、現地時間17日19時ぐらいで、約18時間の移動であった。次の日は早速公式練習が組まれていて長旅の疲

れもあったが、ゆっくり調整を行った。

女子は出場12カ国を２つのグループに分け、６カ国総当りによる予選リーグを行い、成績上位４カ国が決勝トーナメントに進出する。日本が入ったグループは、中国、デンマーク、フィンランド、イギリス、ロシアであった。予選は、初戦ロシアに２対０で勝ち、デンマークに０対２で敗れ、イギリスに２対１で勝ち、中国に１対２で敗れ、２勝２敗で迎えたフィンランド戦。勝てば、２位通過。負ければ４位通過の大切な１番に０対３の大敗、予選リーグ２勝３敗、４位で決勝トーナメントに進出した。

決勝トーナメントはもう一つのグループ予選１位通過のアメリカ。パワーでおしてくるアメリカに対して堅い守りで守るがこじ開けられ、１対３で敗れてしまい、５～８位決定戦へ進んだ。相手は予選で敗れたデンマークであったが、４対２の粘り勝ち。次戦の５・６決定戦では同じく予選で敗れたフィンランドに10分ハーフ及び延長の３分ハーフ行っても０対０で決着がつかずエクストラスローへ（サッカーで言うPK）。最終的に１対２で敗れ、６位となった。

この大会通して感じたことは、世界のゴールボールのレベルアップがはかられている一方、日本のゴールボールも世界で通用することが実感できたことである。過去アテネと北京の２回パラリンピックに出場したが、これまで海外との体格の差、パワーに押されてきたが今回は粘り強くディフェンスを固め、相手の嫌がる攻撃を繰り返すことによって活路を見出すことができた大会であった。

現在のチームで過去にスポーツを行っていた選手は少なく、視覚に障害をもってからゴールボールと出会いスポーツを始めた選手ばかりである。目標を持ってあきらめずにトライし続けた結果が今大会の６位であり、次の目標であるロンドンパラリンピックの出場権獲得、パラリンピック優勝を目指して、選手・スタッフ一丸となってトライし続けていきたい。

今回このような機会を与えていただき誠にありがとうございました。貴重な経験を日本の障害者スポーツの発展のために役立てていきたいと考えています。

今後ともゴールボール日本代表チームへの応援よろしくお願いします。

決勝トーナメントで対戦したフィンランドチームと